

「現場主義」消防総合マガジン

# 月刊 消防

# 7

2019 July

特集

## 女性職員の活躍推進を目指して

## ～後方支援訓練とアンケート調査を実施～

## さいたま市消防局

科学消防戦術の実践

日本救助犬協会・スイス災害救助犬団体との連携訓練を実施

<https://www.tokyo-horei.co.jp/magazine/shobo/>

[f-s@tokyo-horei.co.jp](mailto:f-s@tokyo-horei.co.jp)





# 危機管理を学ぶ大学生が海保ポスターを制作

「月刊消防」編集室



写真提供：海上保安庁

海上保安庁が、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を見据え、海上・臨海部におけるテロ対策の啓発ポスターを制作した。このポスターは、まさにテロ対策も研究対象の一環としている日本大学危機管理学部とのコラボレーションにより、学生が写真撮影、デザインなどを担当して制作された。

危機管理を学ぶ学生にとっては、公安機関の会議に参加するなど実務に触れることができた貴重な機会となった。

## 制作者からのコメント

宮崎克也さん

今回、海上・臨海部テロ対策協議会の方から直々に海上テロ対策についてのポスター制作のご依頼をいただいたときは、驚きと緊張感がありました。今までは大学の学園祭のポスター制作レベルでしたが、全国的に貼られるということだったので、誰が見ても分かるポスターを作らなければならぬということを重視しました。

テロは場所も手段も対象者も選ばず唐突に起こされます。その危険性は空港や、駅、街中やスタジアムだけではなく、港湾でも起こる可能性があるということを知っていたら、普段の生活の中で些細なことに気づくことができる人になるきっかけになればという願いを込めて制作しました。港湾施設に立ち寄った際には是非このポスター2枚を探していただければと思います。

吉澤遥菜さん

ポスター制作の依頼が来たときはとても驚き、私たちがいいのだろうかと不安でした。長期間にわたり打ち合わせを行い、ポスター案には何度も修正を加えていきました。このとき、テロ対策ポスターに多く使用されている爆弾のイラストをあえて使わずに、目に留まりやすいデザインになるよう心掛けました。次第に、街中にある様々な啓発ポスターに負けないものを作り、多くの人に見ていただきたいと思うようになりました。海上や臨海部でもテロが起こり得ることを、そしてその対策をしている方々がいることを、このポスターを通じて知っていただき、テロについて考えるきっかけになれば幸いです。また、このような貴重でやりがいのある経験をさせていただいて、私は大変うれしく誇りに思います。関係者の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。



▲制作者である宮崎克也さん(右)と吉澤遥菜さん(左)